

## 沖縄で麻疹が流行中！！

麻疹（はしか）といえば子供の病気というイメージをお持ちの方も多いと思いますが、免疫を持たない大人は容易に感染しうるウイルス感染症です。本年3月20日から沖縄で麻疹（はしか）のアウトブレイクが報告されており、4月21日時点で沖縄県内にて71名の感染が明らかになっています。麻疹と言え、2016年に関西国際空港で起こったアウトブレイクは記憶に新しいですが、この時には33名の空港職員が麻疹を発症し、社会的にも大きな話題となりました。今回の沖縄のアウトブレイクはすでに東京や名古屋に拡大しており、ゴールデンウィークでの人の移動で感染者が日本中に拡大することが懸念されています。

図1 世界の麻疹発生状況

日本はWHOから2015年3月に麻疹排除認定がなされていますが、その後も海外からの持ち込み事例が散発的に発生しており、現在日本での麻疹は輸入感染症という位置づけになっています。今回の沖縄でのケースも台湾からの観光客が発端となったことがわかっています。世界を見てみると、途上国を中心に世界中で多数の感染が見られており（図1）、これらの国から日本に持ち込まれる可能性は十分にあります。

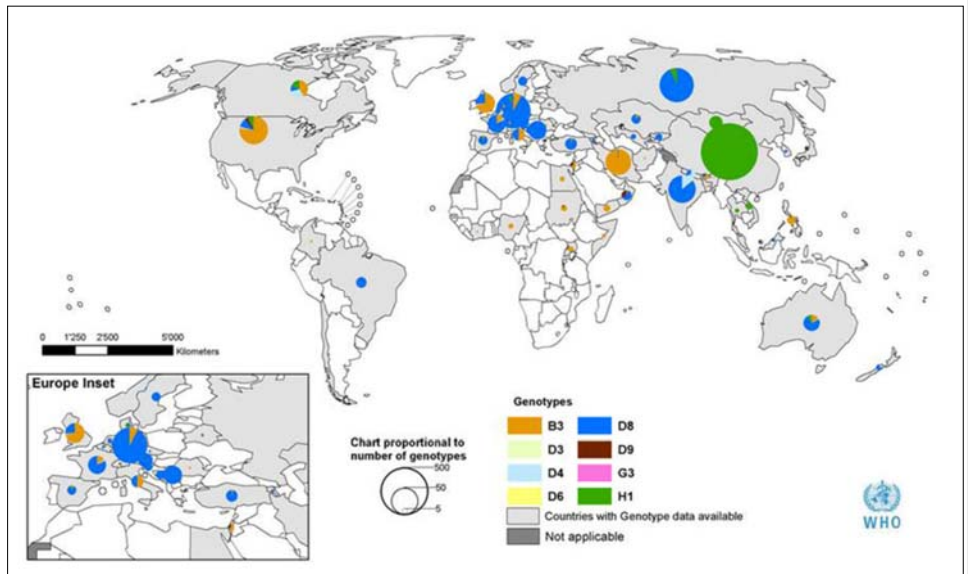
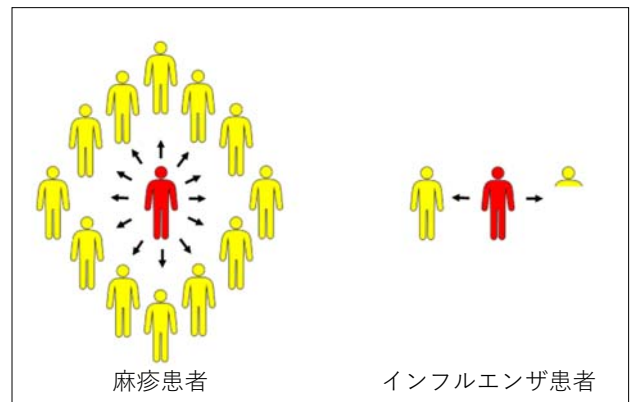


図2 麻疹の感染力

麻疹（はしか）を起こす麻疹ウイルスは空気感染をきたす非常に感染力の強いウイルスです。1人の麻疹患者は周囲の免疫を持たない人12人に感染を成立させることができるとされています（インフルエンザは1.2人、図2）。10-12日間の潜伏期間の後に2-4日間のカタル期と呼ばれる発熱、咳やくしゃみなどの上気道症状、結膜炎症状が現れます。その後に発疹が出現しますが、カタル期の初期には通常風邪との鑑別が難しく、診断がつかないうちに新たな人への感染を引き起こしてしまいます。重症化すると肺炎や脳炎などの重篤な合併症を発症し、死亡する場合があります。また、妊婦さんが感染すると、胎児の流産、早産のリスク、妊婦本人の重症化リスクが高くなるため特に注意が必要です。当院の職員は抗体価を調べ、低抗体価の方にはワクチン接種を行っています。対象者の職員の方は必ずワクチンの接種を受けてください。



今年、訪日外国人の数は年間3000万人を突破すると予測されており、この数は5年前の3倍以上になります。2020年の東京オリンピック開催に向けて訪日外国人のさらなる増加が見込まれていますので、海外からの観光客をターゲットとしたインバウンドインフラの整備と同時に、麻疹を含めた輸入感染症に対する準備が急務となっています。